

■江原素六とその周辺 70

津田梅子と江原素六

■シリーズ 沼津兵学校とその人材 110

文久遣欧使節に加わった山田八郎

■令和5年度新収資料の紹介

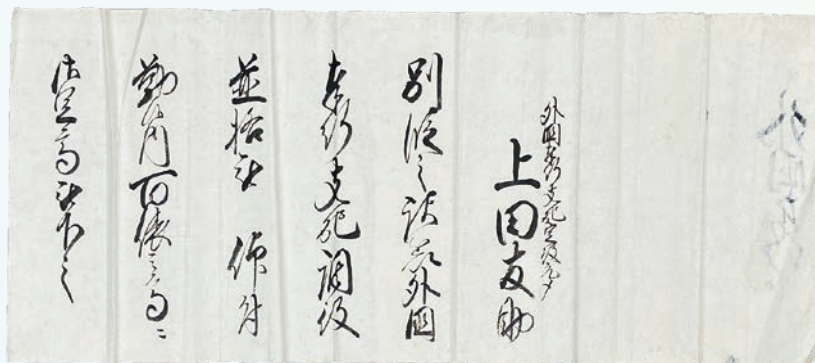
■令和5年度当館収蔵資料の利用

■お知らせ

二〇二四年五月

沼津市
史料館
明治通信

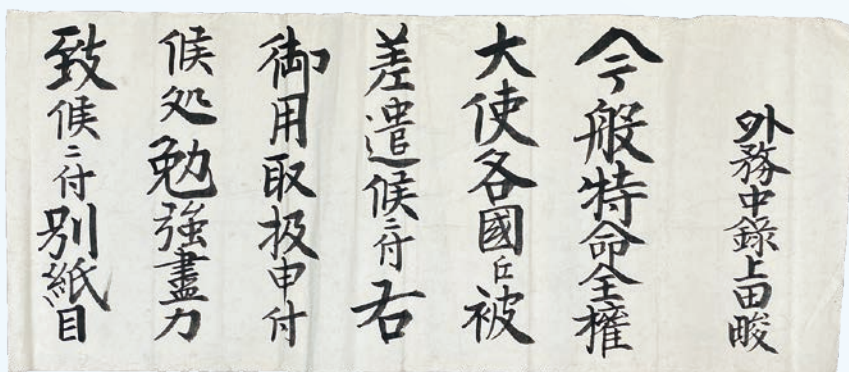
通巻157号



上田友助あて外国奉行支配調役並格の辞令

安政5年(1858)

当館蔵



上田峻あての岩倉使節団事務担当につき褒状(後欠)

当館蔵

上田峻(1816~79、旧名は友助・友輔・東作)は、遣欧・遣露使節団に加わった経験を持つ幕臣で、新潟奉行手附出役・外国奉行支配定役元メなどを歴任、維新時には徳川宗家から一橋藩に貫切(所属替え)となり、三等教員をつとめた。明治政府出仕後は、新潟府組頭格・外務権大録などを歴任したほか、娘の梯子を女子留学生としてアメリカへ送り出した。退官後、東京築地に上田女学校を開設した。梯子の姉孝子は、沼津兵学校教授乙骨太郎乙の弟綱二(旧名は亘)を婿に迎え、上田家を継がせた。綱二・孝子の間に生まれたのが、詩人・翻訳家上田敏(1874~1916)である。梯子は病気のため早く帰国し、一橋徳川家に仕える医師だった桂川甫純に嫁いだ。

津田梅子と江原素六

江原素六が、維新後に移住した静岡県駿東郡において西洋式の牧畜に着手したのは廃藩後の明治五年（一八七二）のことである。愛鷹山の山裾を利用して、主として西洋から輸入した牛を飼ったのであるが、牛の運搬を担当してくれたのが津田仙であった（『江原素六先生伝』・上篇一八二頁）。

江原自身も、「横浜に居るスミスと云う人から極く良いシヨルトホーンの牡牛を一匹只呉れると云うことでありました。それを貰って津田仙さんが非常な注意をされて箱根山を越して持って来て呉れました」（『予の受けたる境遇と感化』『現代名流自伝』）と述べている。津田仙（一八三七～一九〇八）は静岡藩士にはならなかったものの旧幕臣であり、以前から江原とは旧知の間柄だったのかもしれない。仙は東京麻布で農学社という学校を開き、西洋の農学を教えたこともあり、静岡県で牧畜や開墾・製茶などに取り組んだ江原にとって津田が発行する農学雑誌などは参考とすべき先進知識だった。また、後に二人はともにクリスチャンになったため、信仰の上でもごく親しくなる。

仙の娘が津田梅子（一八六四～一九二九）である。アメリカに渡った最初の女子留学生五名のうち、梅子に加え、永井（瓜生）繁子、上田（桂川）梯子の三名も旧幕臣の娘であった。特に繁子は、静岡藩沼津病院医師永井玄栄の養女で、沼津兵学校資業生永井久太郎の義妹であり、自身も沼津に住んだ時期があったので、江原とも接点があった。

江原が津田梅子本人と具体的にどのような交遊

を持ったのかははっきりしないが、関係があったのは確かである。沼津市明治史料館が所蔵する江原素六関係文書の中には、梅子や女子英学塾（現津田塾大学）に関するものが幾つか含まれており、そのことが裏付けられる。また、大正二年（一九一三）五月、排斥を受ける日系移民慰問のため江原がアメリカに渡った際、同じ客船コレア号には万国基督教学生大会に出席するため津田梅子も日本キリスト教女子青年会代表として乗っており（『信仰の人江原素六』）、当然船中では交流したはずである。

たとえば、野紙に毛筆で記され綴じられた住所録（資料番号N-47）には、「麴町区五番町十六番地津田梅子」との記載がある（ただし江原自筆ではない）。年不明の三月一四日付の手書き書簡（資料番号E-a-331）は、女子英学塾同窓会から「江原素六殿・同令夫人」に宛てたもので、「本塾資金募集の件」について懇情を感謝するとともに、来る二五日に開催される「新卒業生歓迎晩餐会」の案内状となっている。同窓会による資金募集の発起は大正九年（一九二〇）三月、後援会の成立はその翌年のことなので、どちらかの年の書簡であろう。

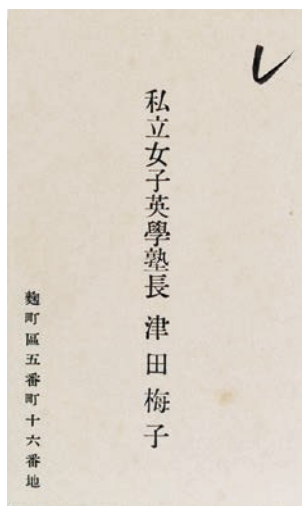
江原にとっては最晩年にあたる、大正一〇年（一九二一）の新聞報道では、「母校の内容充実と発展」を目的に、長期の病氣療養にあった梅子に代わり、女子英学塾の同窓生たちが団結して、同年四月に後援会を組織して六〇万円の基金募集に着手し、さらに目標額を八〇万円に増額、「早川千吉郎、小野英二郎、志立鐵次郎、江原素六、林博太郎」らが委員となって、その運動をサポートすることとなったという（『読売新聞』大正一〇年六月二八日）。その関係で江原に送られた大正一〇年二

月一四日付の女子英学塾理事・同窓会委員からの書簡（「私立女子英学塾」の便箋二枚を使用）が残っており、江原が欠席した一二日開催の資金募集委員会の決議内容を報告している（資料番号W-h-2）。また、同一一年（一九二二）四月二一日付の蟹江操の書簡も現存する（資料番号E-a-197）。蟹江操（操子）は女子英学塾の第六回卒業生で、母校の教授・幹事をつとめるとともに、後援会の委員でもあった。その書簡は「女子英学塾」と印刷された便箋三枚に毛筆で記され、封書にて郵送されたもので、前日に開催された委員会に江原が欠席したことから、会議の結果を報告する内容となっている。筆跡から判断すると、先に紹介した三月一四日付書簡も蟹江が書いたものと考えられる。蟹江の名は江原の住所録（資料番号N-44「明治十年度書状往復」）にも記されているほか、名刺も残されている。

他に「女子英学塾資金募集分担表」と題された謄写版の綴りが現存する（資料番号P-c-21）。主に実業界の名士一六六人の氏名が列記され、その下に対応する形で「小野」「志立」「林」「早川」といった委員の名が記されていることから、個人別に募金依頼の担当を定めた一覧表であろう。「江原」に対応するのは、高山長幸（江原の女婿・実業家）、岩垂邦彦の二名のみである。なぜか、もう一人の江原の女婿である実業家福井菊三郎の担当は、別人になっている。この募金者一覧には、石渡敏一・植村澄三郎・郷誠之助・佐々木慎思郎・佐々木勇之助・洪沢栄一・野沢源次郎・福沢桃介・益田孝・渡辺嘉一ら、旧幕臣とその子弟の中の有力者たちの名前も見出せる。

なお、確証を見出せていないが、そもそも江原と女子英学塾との間には、父仙との関係やキリス

ト教といった背景以外に、娘が女子英学塾の生徒になるといった直接的な接点があったのかもしれない。



津田梅子の名刺
当館蔵
江原家に伝来したもの。

江原家文書の中には、大正一一年五月に江原が亡くなった際、弔問に訪れた人々が残っていた名刺が多数残されているが、その中に「私立女子英学塾長 津田梅子」の一枚も含まれる。ただし、本人が訪れたのか、代理の者が名刺だけを持参したのかはわからない。後援会の寄付金によって東京郊外の小平村（現小平市）に校地を取得したのは江原が亡くなった年の一二月、学校が同地に移転したのは梅子没後の昭和六年（一九三一）のことだった。（樋口雄彦）

シリーズ 沼津兵学校とその人材 110 文久遣欧使節に加わった 山田八郎

山田八郎（諱は方吉）という幕臣は、小人目付として長崎海軍伝習所に派遣された人物で、海軍の下士官要員だったとされる。それ以前には、ディ

アナ号が下田の津波で被害を受けた頃、ロシアとの交渉に従事していたともいう。文久二年（一八六二）に幕府が派遣した竹内保徳（下野守）を代表とする遣欧使節団に、やはり小人目付として参加した。ペテルブルグの病院で手術のようすを見学した福沢諭吉が血を見て気絶してしまった際、山田が水を飲ませてくれたという逸話もある（『福翁自伝』）。

帰国後は陸軍に所属し（ただし武鑑では慶応四年まで小人目付のまま掲載）、江戸関口で大砲鑄造場が建設される際、お雇いフランス人の通訳をつとめたとされる。洋学は森山多吉郎に師事したらしい（杉浦直次「幕臣山田八郎の事歴」『史談会速記録』第二八一輯、一九一六年、復刻合本三八、一九七五年、原書房）。

そして幕府瓦解後の履歴については、以下のような証言がある。「維新後は陸軍の役員で駿河に移りまして、沼津に陸軍の学校がございましたがそれに出て居りました」（同前・杉浦直次談話）。つまり、駿河に移住して静岡藩士となり、沼津兵学校に勤務したというのである。しかし、山田八郎が沼津兵学校や静岡藩軍事掛に在籍した記録は、現在のところ発見できていない。同名異人の可能性もあるが、「山田八郎」の名は、明治二年（一八六九）正月頃刊行の移住者名簿『駿藩各所分配姓名録』では、三州横須賀の部に記載されている。肺病のため亡くなったのは、明治一四年（一八八一）、四八歳の時だった。没年月日については、明治一四年五月一五日とされる（『新訂増補海を越えた日本人名事典』）。

ちなみに、史談会において山田に関する証言を残した杉浦直次なる人物は、明治八年（一八七五）から二〇年（一八八七）頃には、東京の仮師範学



ベルリンでの山田八郎



写真裏面の自署

校生徒、四ツ谷小学校准訓導、四谷夜学所の教師だった（東京都公文書館所蔵文書）。族籍は静岡県士族であり、静岡育英会の会員でもあったことから（明治二〇年『育英会々員人名録』）、やはり駿河移住の旧幕臣だったと思われる。山田没後、杉浦は勝海舟の海軍歴史編纂に協力し、山田が残した旧幕時代の書類を提出してしまっただけで、二人は親戚関係にあったのだろう。なお、彰義隊に加わった後、陸軍隊の差図役頭取として箱館戦争に参加、松前での戦闘で負傷して捕虜となり、後に熊本藩にお預けとなった山田八郎（最初は今井姓、明治二年時点三四歳）なる人物がいる（『徳川脱藩人事典』）。同名異人でなければ、彼が沼津に来たのは赦免後の明治三年（一八七〇）二月以降ということになるが、やはり別人であろうか。（樋口雄彦）

柴田剛中関係資料
国立歴史民俗博物館保管
講武所風という、幕末に流行した月代^{さかやき}を狭くするヘアスタイルである。

令和5年度新収資料の紹介

昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

寄贈	井上 文男 様 町田 信子 様 清水 直哉 様 佐々木恭之助 様 田内百合子 様 田堀 雅尚 様 川口 一英 様 海部 弘 様	古川宣誉関係資料 戦死者の死亡告知書 「養珠院様葵紋附帷子拝領由緒書」 佐々木慎思郎・浅野氏祐関係資料 「軍隊手帳」・傷痍軍人手帳 水野助左衛門歌詠短冊 コンビナート反対闘争録巻 写真「江原素六古稀賀記念」	購入	業生」、榊順次郎著『脚気病ト米穀トノ原因上関係』、青木不動編輯『小学記事文自在』上・下、大平俊章・愛知信元編『算算教授次第等式』巻一・二、和達孚嘉・根岸定静序文『山形県通覧』、生駒藤之「須津山碑稿」、浅田耕訓読『龜頭十八史略読本』全七巻、絵葉書「工手学校建築学科第四十六回卒業生」、平井参・平野彦次郎編『韓非子鈔』、『麻布中学校校友会雑誌』第五十五号、鈴木経敷『南島巡航記』、大石潤大撰書『日向堤防修補碑銘』
	沼津兵学校・旧幕田関係 西周校長独逸学協会学校関係資料（昇級・卒業証書）、塚本明毅著『算算訓蒙』巻二（高松藩旧蔵）、塚本明毅校正『改正三河後風土記』、赤松曾代（赤松則良五女）宛証書、渡部温自筆伏裏及び自著資料、杉田玄端訳『健全学』、田口卯吉書簡、永峰秀樹『算算教授書』巻之六、鳥田三郎著『田中正造翁小伝』、絵葉書「鳥田三郎」、嶋田随時製写真「楠田看護産婆学校第一期卒業生」	沼津藩関係 水野忠成画「猿猴図」、水野出羽守作茶碗、五十川中書、桃井春蔵直正書幅、写真「工業教育研究会々員」（手島精一など）		その他沼津の歴史関係 江浦村古文書、沼津宿関係資料、駿河国駿東郡中沢田村文書 「株式会社駿河銀行営業案内」、「株式会社駿河貯蓄銀行営業案内」、「富士の菜全」、パンフレット「伊豆の旅は竜宮丸で」

令和5年度当館収蔵資料の利用

明治史料館の資料がいろいろなところで活躍しました。

☆展示使用

4月～5月	愛知県美術館 企画展「明治の視覚表象」 「Art of drawing」(荒川重平関係資料)、『通俗伊蘇昔物語』
4月～6月	たばこ塩の博物館 特別展「没後200年 江戸の知の巨星・太田南畝の世界」 『街談録』巻5～7 (大川通久関係資料)
4月～8月	沼津市立図書館 市制100周年・市立図書館開館30周年記念企画展「本でたどる沼津の100年」 パネル「昭和26年沼津市中心地商店会社案内図」、古写真など
6月～7月	沼津市教育委員会 市制100周年記念お祝い給食試食会内「今昔写真コーナー」 市内古写真など
7月～2月	沼津市立図書館 市制100周年記念展示「沼津の学校と教科書のあゆみ展」 『算算訓蒙』、沼津兵学校附属小学校の教科書
9月～10月	E.W.クラーク顕彰事業実行委員会 静岡市歴史博物館オープンスペース パネル展示「静岡のクラーク先生と勝海舟」 写真「勝海舟」(旧幕臣高橋家アルバム)
11月	公益社団法人江原素六先生顕彰会 沼津市制100周年・公益社団法人江原素六先生顕彰会設立60周年記念「江原素六先生遺墨展・書 杭迫柏樹の世界展」 江原素六書21点
12月～5月	沼津市芹沢光治良記念館 企画展「沼津ゆかりの文学者たち」 絵葉書「対岳楼安田屋旅館」
3月～4月	神奈川県立博物館 特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」 獅子浜戦国文書(市指定文化財・獅子浜植松家文書)
3月～	武田薬品工業株式会社京都薬用植物園 田辺貞吉邸内 邸宅立面図(旧沼津藩士田辺家資料)

☆刊行物掲載

5月	船津秀樹『父からの贈り物～沼津から豊頃へ～』 写真「大正時代の沼津駅前」 『絵物語ぬまづ昔ばなし第4巻「門池の竜」』e-monogatari 写真「牧堰と真口水門」など
8月	「仁田家 家史」私家版 写真「水野忠善十七才」(旧沼津藩士田辺家資料)
11月	『絵物語ぬまづ昔ばなし第6巻「大中寺の六地藏」』e-monogatari 写真「国道1号バイパス開通」「江原公園(昭和58年頃)」など
12月	『予言獣大図鑑』文学通信 「神池姫」(データ・原資料個人蔵)
3月	『沼津市議会100周年記念誌』 写真「市役所旧庁舎」「御成橋の渡り初め」など 『碧南市史料 別巻13 菊間藩大浜陣屋の記憶—激動の明治をたどる—』碧南市教育委員会 「第九区壱小区大浜村八拾五字羽根絵図面」(旧沼津藩士杉浦家資料)

☆テレビ・WEBサイト等

11月	西浦連合自治会地区老人会上映会 「心をあわせて」 NHK「ファミリーヒストリー 角野卓造編」「家務規定」(江原素六関係史料) BSよしもと「東野・和牛の全国街ぶらチーキーズ」 写真「我入道の渡し船」(データ・個人蔵)
2月	Youtube「静岡県の本当にあったお話 平和の大切さを感じて～静岡県東部編～」生活協同組合ユーコープしずおか県本部 写真「空襲後の沼津市街地」(データ・個人蔵)

お知らせ

令和6年度 第1回企画展
富士・沼津・三島三市博物館巡回展

石器とくらし — 愛鷹・箱根西麓の旧石器文化とその周辺 —

【沼津会場】令和6年6月29日(土)～9月1日(日)

富士市・沼津市にまたがる愛鷹山や三島市にかかる箱根西麓には、数多くの旧石器時代の遺跡があります。今回の展示では、それらの遺跡や石器等の様子、特徴について解説するとともに、日本で最初の旧石器時代の遺跡として国指定史跡となった休場遺跡について紹介します。

ギャラリートークやクイズ企画もあります。ぜひお越しください。

*詳しくは当館ホームページでご確認ください。



沼津市明治史料館通信

第157号

令和6年5月31日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL 055-923-3335
FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社